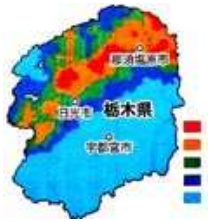
放射能から子どもを守り
１人の被ばく者も出さない

〈日光･放射能から子どもを守る会〉2012.03.23//no.22



赤10～30万,黄6～10万
緑3～6万、紺1～3万
水色～1万 ベクレル/㎡

地表面セシウム汚染地図
2011.08. 02現在換算値

日光市 下原小 0.3μSv/h 安全･自由 !!
南相馬市 原町第１小 ０.１５μSv/h
屋外1日3時間･マスク必要 !!

3月14日、下野新聞18面、「平日の夕方、鬼怒川に架かった小さなつり橋を渡る学校帰りの小学生たち。笑みを浮かべておしゃべりする････」との書き出しで、写真が掲載されています。原発崩壊後、3月17日、原発から約27キロの南相馬市から日光に避難してきた家族が、年度末に郷里へ戻る子どもたちの様子を伝えた記事でした。

この笑顔の写真は、「残酷きわまる写真」です。本来、マスクをし、校庭での活動を避けるべき汚染状態です。日光市の安全を叫ぶ結果は、怒りを新たにし心痛めます。

記事は続けます。疎開していた2人の子どもは、南相馬市の小学校「原町第一小学校･･･表土除去の除染で毎時0．2マイクロシーベルト台に下がった。しかし･･子どもたちは半分ほどしか戻っていない。**外で自由に遊べた日光市**と違い、**南相馬市**では小学校での屋外活動が**1日3時間**に制限される」と、紹介しています。そして、日光の下原小学校に来てからは「雨の日も雪の日も、40分の道のりを歩いて通っている」と、下野新聞は、子どもたちを利用して、日光市の『安全アピール』なのか、無知なのでしょうか。

南相馬市に家族が戻らないのは、地域の高汚染の危険からです。(no.18 参照)

南相馬市-原町第一小学校、日光市-下原小学校の放射線量、姿勢

❑南相馬市立原町第一小学校//放射線量　　平均 0.15μSv/h
＊放射線量 (2012.03.05～09)　0.19-0.15-0.14-0.13-0.14 マイクロシーベルト
＊小学校　屋外活動１日3時間、風が強く、ほこりが舞うような場合はマスク着用
＊原町地区　おおよそ１μSv/h前後の線量汚染

❑日光市立下原小学校//放射線量　　平均 0.302μSv/h
＊放射線量 (2012.03.05～09)　0.30-0.35-0.35-0.30-.021 マイクロシーベルト
＊小学校　１μSv/h未満で屋外活動は問題ない。
＊下原地区　小学校とさほど変わらない 0.3μSv/h前後の線量汚染

風が吹くときは
マスクをしよう!!
布団干し、洗濯物は室内で

風の吹く日は、地表の放射性物質をまきあげ、それを吸い込むことになります。身体に入ると内部被ばくの危険が高まります。また、布団・洗濯物に放射性物質が付いては困ります。チョッとの注意の心がけを！

日光市の該当するゾーンは？

❑チェルノブイリ･ゾーン　❑〈1999.ナスビット論文より〉

① 移住義務ゾーン	5mSv/年以上
② 移住権利ゾーン	1 mSv/年以上
③ 放射能管理強化ゾーン	0.5 mSv/年以上

②移住を希望すれば資金など支援。
③厳重な放射能汚染対策を実施する地域。

❖年1mSv/時 0.114μSv/公衆被ばく限度基準/ICRP
*内部被ばく含まず、成人対象/妊婦、乳児など敏感無視

❑ 政府の放射能除染基準//毎時0.23μSv ❑
〈日常生活で8時間以上屋外活動禁止が前提、* など〉
❑栃木県原発崩壊前//0.038～0.044μSv/h❑

日光市放射能汚染分布

2011.10.03-12 調査/日光市
測定地上 50cm

マイクロシーベルト/以上～未満		
0.1 未満	1ヶ所	0.2%
0.1～0.2	155ヶ所	28.8%
0.2～0.3	187ヶ所	34.8%
0.3～0.4	152ヶ所	28.3%
0.4～0.5	30ヶ所	5.6%
0.5～0.6	10ヶ所	1.9%
0.6～0.7	2ヶ所	0.4%
0.7～0.8	1ヶ所	0.2%

〈News〉日光市は「水」も「空気」も「食べ物も」安全です〈日光観光安全宣言〉

❑中禅寺湖/ニジマス 168.9 ベクレル、ブラウントラウト 280.0、ヒメマス 195.7。〈12.03.09〉
❑原発被害者への賠償金、政府から東電に１兆7千億円援助。支払い25%〈12.0311〉
❑「検出せず」は、放射能被ばくゼロじゃない。内部被ばく、県調査71人 〈12.03.12〉
那須塩原市金沢小学校学区内住民//セシウム 137 検出限界値 300 ベクレル未満など
❑「二宮尊徳記念館」設計に、来年度 5000 万円、さらに、建設費何億円か。〈12.03.13〉
放射能汚染の中、子どもたちの健康無視を続ける観光優先の姿勢、金次郎喜ぶ！？
❑「内部被ばく『県内安心』学校給食ほぼ不検出」。『不検出』は、汚染ゼロでありません。子どもたちには放射能汚染ゼロが必要です。〈12.03.21〉

〈放射能の危険!〉 見たり聞いたり話したり

❑ 親子で活き活き-汚染から離れて〈九州の実家へ一時避難〉❑

日光ではなるべく不要な外出は控え、窓もほとんど開けませんでした。まだ娘も小さく歩けないので外には出さなくても大丈夫かな～、と思っていましたが、こちらに来てから、抱っこして外に出るとピョンピョン飛び跳ねて喜びます。目をキラキラさせて周りを見て、綺麗なお花に手を伸ばします。やっぱり嬉しいんですね～。。「ごめんね、こっちにいる間はたくさん外で遊ぼうね」と語りつつ、日光へ帰ってからの対策も考えねば･･

あ～頭が痛い…

今日は公園に遊びに行きました。雨上がりの公園で泥んこになりながら元気いっぱい遊ぶ子供達を見ていると微笑ましく、こっちまで元気になってきますね。一方で安心して外で遊ぶ事も出来ない子供達の事を考えると、本当に切なくなります。やっぱり子供は外で思いきり遊びながら大きくなっていくのが自然な姿で、絶対に必要な事だと強く思いました。

2012.03.18//Mさん〈旧今市市〉

❖チラシ･バックナンバー見れます//PDF　http://atsugichild.web.fc2.com/
〈日光･放射能から子どもを守る会〉tel･0288･26･0130//nairamdal-1871@dream.jp

日光は汚染！ 放射能の危険を知ろう！

1986年4月26日、チェルノブイリで起こった原発事故で、大量の放射能物質が放出され続け、ベラルーシ、リトアニア、バルト海からスカンジナビア半島へ、ポーランド、オーストリア、スイス、イタリア北部までも放射能に汚染されました。ベラルーシ人の悲劇が始まった日で、すでに数千人もの命を奪い、いまだ健康に悪影響を与えています。

放射性核種セシウム137は半減期が約30年。分裂を繰り返し、ゼロに近づくのは300年もかかります。親も子どもも、そして、その孫やひ孫も、延々と放射能の汚染された環境下で生活し続けていく運命です。私たちは、**放射能の危険をよく知ることで、危険をできる限り回避する知恵を学び健康で生き続けること**が求められています。

❑チェルノブイリ・ゾーン❑ 〈1999.ナスビット論文より〉

ゾーン名	土壌汚染密度 セシウム137 ベクレル/㎡	年間被ばく量 ミリシーベルト/年
❖避難（特別規制ゾーン）	原発周辺 30km/立入禁止区域	
① 移住義務ゾーン	555,000 ベクレル/㎡以上	5ミリシーベルト/年以上
② 移住権利ゾーン	185,000～555,000Bq/㎡	1ミリシーベルト/年以上
③ 放射能管理強化ゾーン	37,000～185,000Bq/㎡	0.5ミリシーベルト/年以上

チェルノブイリ原発事故 5 年後、1991 年にウクライナ法律で汚染地域定義。❖事故直後12万人が避難した強制避難地域。①健康の影響が想定される移住義務地域。②希望移住地域（移住を希望すれば支援）。③厳重な放射能汚染対策が実施する地域。

❖日光市の該当するゾーンは？//②と③に該当しませんか？日光市の地表放射能セシウムの沈着量は、栃木県地図の赤10～30万、黄6～10万、緑3～6万、紺 1～3万ベクレル/㎡。（2011.08.02 換算）また、昨年10月の日光市の全市測定結果 4p 参照。

＊参考/「自分と子どもを放射線から守るには〈日本版〉」世界文化社

放射能汚染地帯で生活続けるチエ

❑全食品、食材の検査が大事です。行政の責任でやるべきです。
　基準値以下でも、特に、子ども、女性、若者には食べさせない。汚染ゼロを!
　食べるものは、汚染されていない県、地域のものに心がけましょう。
　同産地、同じ食品は食べ続けない。汚染ということも考えられます。
❑放射能の危険から子どもを守る対応 「保養」「一時避難」「疎開」「移住」支援が必要

❑538カ所/2011.10.03～12/日光市測定(地上 50cm 1km 間隔で測定) 毎時マイクロシーベルト

❖山内(二社一寺)地域 0.31-0.35 ❖日光だいや川公園地域 0.29-034
❖霧降地域 0.32-0.35-0.36- ❖霧降高原 0.27-0.28-0.37-0.47

放射能から子どもを守る

５年後、子どもと笑って過ごしていたいです♪
10

**思いっきり外に出して、水飲ませて、牛乳飲ませて
雨に濡れても気にせず、笑える日を！**

○×市在住/仮名 ナナオ

さて、今年も頑張りましょうね ！！ と、言いたいところですが、最近は、落ち込んでいるので、何事にも行動力ゼロになってます。

＊ ＊ ＊

それと、ひとつ、名案です。

ここ、栃木県の放射能汚染は、主に、那須と日光ですよね。。。ほぼ、同じくらい汚染されてますよね。那須（県北方面）は、結構、住民の意識が高く、必死でいろいろやってますよね。同じ県内ですし、ガンガン比較して、那須はここまでやってます、那須はこうしてます、と行政に訴えてみるのもどうでしょうか？那須も日光も観光地区ですし。。。

那須の会の人にもコンタクトをとって成功例を聞いてみたり。。。もう、すでにやっていたらすみません。。。日光。。。なんとかしたいですね、本当に。。。

＊ ＊ ＊

ちなみに1月3日～8日まで、京都の方に『転地療法』に行ってきます。子どもの身体を一時的に低線量被曝から解放して、浄化させてあげたいので、関東脱出してきます。

思いっきりマスクなしで外に出して、水飲ませて、牛乳飲ませて、雨に濡れても気にせず、土に触っても怒らず、多少洋服が泥だらけになってもいいよって笑える平和な日常を過ごしてきます。地元産の野菜や魚もたらふく食べてきます。 〈次号に、つづく〉

〈放射能の危険!〉 見たり聞いたり話したり

❑楽しみのふきのとう❑

「ふきのとう食べても大丈夫」、う～ん、僕は去年も、ここ数年食べるの辞めることにした。「そう、息子もそう言っていた」チェルノブイリのこと知っています。「知っているよ、子どもが何年もたって病気に・・・」僕らも気をつけないとね。

❖雨どい 1.982、家の周り 1m は 0.198
周りの人にも雨どい高かったこと、話して・・・「近々寄り合いがあるから話してみます」 (旧今市市-A さん)

❑無数にある雨どいの高放射線量❑

住宅地で放射能の危険性を話しながら、線量を測っています。
特に古い住宅では、雨どいがそのまま地面に落ちるようになっています。ですから、放射線量を計測すれば、次々と高線量の場所が浮かび上がります。以下

❖旧今市市森友地区の住宅地の雨どい
A さん宅 2.243 B さん宅 2.513
C さん宅 1.864 D さん宅 2.326
(単位/毎時マイクロシーベルト)